

# 平成24年功労者表彰

## 災害の防止に貢献(社会功労賞)



萩ヶ岡  
金野 清美さん

昭和34年に消防団に入団以来、班長、部長、副分団長、分団長、副団長の階級を歴任され、昼夜を問わず火災や災害の防止に努められたなか、勤続53年間にわたり、郷土の発展と地域防災活動に奉職され、消防団幹部として組織の運営と発展に多大なる貢献をされました。

11月3日、山村開発センター大ホールにおいて、長年にわたり各分野で、まちづくりに貢献された方へ功労者表彰が行われました。



町への功績をたたえて

## 産業の振興に貢献(産業功労賞)



北居辺  
高杉 國次さん

昭和61年5月から平成19年6月まで21年1カ月の長期にわたり、上士幌町農業協同組合理事として本町の基幹産業である農業振興に尽力されました。この間、平成13年6月からの6年間は、代表理事組合長として農業経営の安定と地域の振興に大きく貢献されました。

さらには、上士幌町農業委員会委員を5年、その他各種附属機関の委員を歴任されるなど、本町の産業振興の進展と住民福祉の向上に寄与された功績は、誠に顕著であります。

## 産業の振興に貢献(産業功労賞)



1区  
長屋 光男さん

平成7年4月から平成24年5月までの17年1カ月の長期にわたり、上士幌町商工会理事として、商工業の振興に尽力されました。この間、平成16年5月からの8年間は、会長を努められ、組織の強化を積極的に推し進め、商工業の改革と進展を図るため、商店街活性化事業に力を入れるなど地域の振興に大きく貢献されました。

さらには、交通安全指導員を27年3カ月、その他各種附属機関の委員を歴任されるなど、本町の産業振興の進展と住民福祉の向上に寄与された功績は、誠に顕著であります。

## ■長寿・永住特別功労者

45名を表彰

満80歳以上で50年以上本町に在住している方のうち、新たに該当することとなつた45名の方を長寿・永住特別功労者として表彰しました。功労者には、町長から感謝状が贈呈されました。

### 【長寿・永住特別功労者(敬称略)】

- 1区▽荒井 ふく、高橋 糸恵 2区▽山野辺 マサエ、山本 久美、3の2区▽五十嵐 タカ子、大川原 吉雄、貝塚 陽一、宮内 静江、吉田 弘、4区▽塙田 八代子、5区▽小野 正夫、新堀 勸、7の1区▽島 輝子、高橋 英、上野 峯子、木藤 俊雄、中島 美枝子、7の2区▽石川 貞子、大内 利雄、三浦 光子、渡邊 ます子、8区▽西尾 アサ子、西川 誠一、10の2区▽青木 ツヤ子、石川 昇、小椋 晃子、11の1区▽鈴木 勝美、11の2区▽美、高橋 左市、高橋 ヨシ、三島 妙子、川大江 勝、15区▽廣瀬 好、16区▽佐々木 マサ子、萩ヶ岡 三、齋藤 喜栄子、北居辺▽菅原 昌、須藤 賢一、東居辺▽佐藤 キヨ子、内藤 隆蔵、北門▽棚橋 武雄、上音 更▽高木 キクエ、上音 更▽薩佐 八郎、伊藤 忠一▽薩佐 八郎、伊藤 忠一



# 生活リズムに改善の跡



## 学力向上の基本 生活・学習習慣

※お問い合わせは、教育委員会(☎2-3014)土肥まで

今年度の学力・学習状況調査は、従来の国語・算数(数学)に、新たに理科を加えて3教科で実施され、本町では全校の小学校6学年及び中学校3学年が参加しました。

この調査は、学校と家庭が今後の教育指導や学習環境等の改善に生かすことを目的とし、教育委員会で作成した「学校改善支援プラン」を参考に、各学校では学校独自の「学校改善プラン」を作成して課題解決に努めています。

**■ 生活習慣や学習習慣等の傾向**

■ 本町が力を入れている「早ね・早起き・朝ごはん」では、家庭との連携で

■ 中学校では、国語の「活用」がほぼ全道平均で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域は、全道・全国平均を上回っていますが、その他の教科の「知識」「活用」では得点分布にもバラつきが見られ、全道平均を下回る調査結果となっています。特に、数学の「活用」・国語の「知識」・理科の「知識」については、全道との差が目につき、今後、個別指導を重視した基礎的な知識・技能の定着に重点をおく必要があります。

■ 小学校では、「知識」「活用」が、ともに全道平均を上回り、特に算数の「活用」は全国平均を上回る調査結果となりました。新たに行われた理科の「知識」「活用」についても、全道・全国平均を上回り、本町が長年取り組んできた「環境学習」の成果の一端が表れていることが考えられます。しかし、国語の「活用」の漢字などを扱う「言語事項等」では課題も残っています。

■ 中学校では、国語の「活用」がほぼ全道平均で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域は、全道・全国平均を上回っていますが、その他の教科の「知識」「活用」では得点分布にもバラつきが見られ、全道平均を下回る調査結果となっています。特に、数学の「活用」・国語の「知識」・理科の「知識」については、全道との差が目につき、今後、個別指導を重視した基礎的な知識・技能の定着に重点をおく必要があります。

■ 家庭学習の内容については、「与えられた宿題」だけでなく、新たに「授業の復習」も全道平均を上回る結果となっています。しかし、「授業の予習」については、小・中学生とともに全道平均には届いていない結果となっています。

■ 家庭学習の習慣化を図る

■ 授業改善に努める

■ 家庭学習の習慣化を図る

■ 家庭学習の習慣化では、学校と連携する中で家庭の果たす役割は大きいものがあります。子どもとの関わりは、学年の発達段階によって異なりますが、共通することは、子どもにとって望ましい教育環境を整備し、指導や支援などに努めることです。

■ 授業改善に努める

■ 学力向上では普段の授業の充実が基本となります。各学校の「学校改善プラン」では、一人ひとりの指導や変容に目を向け、「分かる喜び」を実感できる授業を開拓し、基礎的な知識・技能などの定着を図ることを重視しています。そのため

### 本町の児童生徒の学力傾向

安定した傾向が見られていますが、早ねでは中学生の一部に課題が見られています。

■ 家庭学習の習慣化に向けて、家庭における「テレビやビデオなどの視聴時間の短縮」や「家庭学習の時間確保」などは大きな課題となっていますが、改善の跡が見られており、小学生は2年連続全道平均を上回っています。一方、中学生は年々改善されていていますが、全道平均には至っていません。

※ティーム・ティーチング方式とは、授業場面において、2人以上の教職員が連携・協力を通じて一人ひとりの子ども及び集団の指導の展開を図り、責任を持つ指導方法及び形態のこと。

に、TT(ティーム・ティーチング)方式による指導や見取り、繰り返しや補充的な学習内容の導入、授業の振り返りをする評価の取組みなどの授業改善を実践することを進めています。また、授業外では、放課後や夏・冬休み中にはサポート学習を実施して、確実な定着に努めているところです。